

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章37-43a節＞

この出来事が持つ意味は？ 幾つかのポイントあり。

1 (37) モーセがシナイ山から降りて来た時の状況を思い出す。

イエス様は山上で変容されました(28-36)。それはイエス様が神に等しい方であることをはっきり示す出来事でした。そのイエス様がおられない時、おられない所で、悪霊が追い出されない状態が続いていたわけです。モーセがシナイ山から降りて来た時を思い出します。

2 (38-41) 父親の言葉をどう捉えるかで理解は変わる。

父親は弟子たちが悪霊を追い出すことができなかつたと訴え、それを聞いたイエス様の嘆き・悲しみ・怒りの言葉が続いています。私たちはこれを読むと、悪霊を追い出すことのできなかつた弟子たちの信仰のなさをイエス様が叱責しておられるように思いがちです。しかしそう理解すると、この話は弟子たちの信仰が足りなかつたことを示す話で終わってしまいます。しかし、文脈からすると、イエス様は弟子たちよりむしろ父親やそこにいた群衆に向かって語られたとも取れるからです。ルカが伝えたかかったことは何なのでしょうか？

3 (42-43a) 見つめるべきお方はただ一人、主イエスの神様。

この後、マルコやマタイが信仰や祈りを持ち出しているのに対して、ルカはずっとシンプルに、イエス様が子から悪霊を追い出されたことだけを語り、主イエスその方、あるいは、主イエスの力に集中して記し、最後に、「人々は皆、神の偉大さに心を打たれた」(43a)と付け加えて終わります。つまり、人々はイエス様を通して偉大な事をなされた神様の存在を思わされたのだ、とルカは伝えたかかったのです。

4 この話の主題は何か？ 自分自身 (の信仰心) より神様を見つめよ！

父親は弟子たちの力の無さを責めました。それは弟子たちの信仰の無さを責めたとも考えられますが、何か妙です。父親の信仰はどうなっているのでしょうか？ 信仰のゴールは、イエス・キリストを通して覚えさせられた神の偉大さに心打たれて生きる者となること、すなわち、「この神様が今ここに私と共に居ますのだ」と思いながら生きる者となることです。「なんと信仰のない」(41)とイエス様は言われましたが、大事なことは、信じる私たちの信仰の強さ弱さを問題にする前に、「偉大な神様がいつも私と共におられるのだ」ということを思って生きようとしているか、なのです。一言で言えば、神様を見つめて生きよ、です。